

IX 対話 —エンゲージメント

価値創造へつながるステークホルダーとのコミュニケーションへ

azbilグループは、自らの事業を通して「持続可能な社会へ『直列』に繋がる貢献」を目指しています。そのためにはステークホルダーの皆様との双方向のコミュニケーションを通じて、各国・各地域における様々な課題を的確に捉え、解決策を立案し、持続的成長に向けた価値創造につなげていくことが重要です。この観点から、経営層自らステークホルダーの皆様との対話を積極的に進め、より透明性の高い、信頼感のある関係構築に努めています。

コーポレートコミュニケーション体制

当社グループでは、コーポレートコミュニケーション担当役員の下、社内各部門の連携を図り、ステークホルダーの皆様との対話を促進する体制（コーポレートコミュニケーションタスク）を通じ、適時・適切、統合的な発信やデジタルツールを含めた新しい機会・ツールの導入等、より良いコミュニケーション活動実現へ向けて議論しています。また2023年度から主要な情報発信に関わる組織を統合し「コミュニケーション部」を新設し、この体制をもとにグローバルでのコミュニケーション活動の促進、ブランディングを進めています。法令・規則に則った公正で透明性の高い情報開示を適時・適切に行うとともに、財務情報はもとより経営計画やESGなどの非財務情報、製品・サービス情報までを積極的に発信、併せてステークホルダーの皆様からのご意見は経営の参考としています。



ディスクロージャーポリシー

<https://www.azbil.com/jp/ir/management/disclosure/index.html>

各ステークホルダーとの対話内容

	お客様	お取引先様・サプライヤー
コミュニケーションを通じた価値創造	• より良い製品・サービスの開発 • コンサルティング、品質保証、高付加価値なエンジニアリング・メンテナンスサービスの提供	• 公正な取引機会の確保 • より良いパートナーシップ構築 • SDGsを共通目標とした価値共有、社会的責任の遂行
コミュニケーション機会	• 営業活動・品質保証活動 • 安全・安心で価値のある製品・サービスの提供 • Webサイトによる情報提供 • Webサイトのお問い合わせ窓口 • 展示会・ウェビナー	• CSR調達ガイドラインの説明 • ESG視点でのお取引先様自己評価アンケート実施とフィードバック • サプライチェーンに対する独自のSDGs目標達成への取組み
2022年度の活動例	• 計測展2022 OSAKA / 計測展オンライン・プラスへのハイブリッド参加、Industrial Transformation ASIA-PACIFIC、スマートビルディングEXPOほかに出展、DXやカーボンニュートラルなどへの貢献として、先進的な製品・サービスを紹介	• SDGs達成に向けた動機付けと具体的な取組みを促進していくための説明会を実施 • 人権デューデリジェンスの実施（主要お取引先様約300社に対し実施）

トップマネジメントによる積極的な発信

持続可能な社会の実現に向けた計測・制御の技術による現場での課題解決の取組みやグループ内の取組みについて、日経ESG誌へのインタビュー記事掲載や日経SDGsフェスでの講演等、様々な場面でトップマネジメントが積極的に発信しています。



日経SDGsフェスにおける講演

サステナビリティに関する開示要請への対応、お取引先様とのコミュニケーション

当社グループは、グループ理念をもとに機会とリスクの両面から、中長期の事業環境変化を勘案して「マテリアリティ」を特定し、具体的な指標および目標として「azbilグループSDGs目標」等を定め達成に向けて取り組んでいます。

2022年度は、有価証券報告書にてそのサステナビリティ項目である気候変動への対応と人的資本の投資の強化について開示を拡充しました。また多岐にわたる非財務情報をまとめたESGデータブックを新たに発行したほか、お客様・お取引先様とともに社会的責任を果たす観点から、お取引先様と当社グループのSDGs目標を共有するとともに、アンケートや説明会、人権デューデリジェンスを実施しました。(参照：p81-84)



ESGデータブック

<https://www.azbil.com/jp/ir/library/esg/index.html>

社員	地域社会・国際社会	株主・投資家
一人ひとりが生き活きとして働き、能力を最大限に発揮できるような「健幸経営」の実現	- 地域社会・国際社会からのニーズや期待に応える積極的なコミュニケーション、社会貢献活動への参加 - 各種宣言、イニシアチブ、活動への参画を通して責任ある企業活動実践	- 適時・適正な情報開示 - 資本市場からの適切な評価獲得、資本市場の要望のフィードバックによる企業価値向上 - 社会課題やサステナビリティに関する取り組みと開示
- イントラネットによる情報発信 - 役員と社員の直接対話(職場単位およびマネージャー層とWeb活用による対話) - 社員満足度調査実施(毎年)、満足度をSDGs目標として設定・達成に向けた取組み - 労働組合と経営層との定期的な対話(経営協議会)	- 季節行事(納涼祭等)や社会貢献プログラム(教育支援等)への近隣住民・施設の方ご招待 - ボランティア活動(地域清掃活動、みつばち倶楽部) - 国際イニシアチブへの参加(国連グローバル・コンパクト、TCFDなど)、ウェビナーなどでの情報発信 - 生物多様性保全活動(国内外NPO・NGOとの協働)	- 株主総会、決算説明会、施設見学、展示会 - 国内外機関投資家・アナリストとの個別ミーティング、個人投資家への説明会 - 統合報告書(azbilレポート)、事業報告書(株主の皆様へ)、ESGデータブック、Webサイトでの情報開示 - ディスクロージャーポリシーの設定とこれに基づく対話
- 役員と社員の直接対話実施(社長による社員とのエンゲージメント推進) - 社員満足度調査実施(働きがい・成長を実感する社員の比率測定) - 部門横断の交流・専門性を高める議論の機会提供(CoP※) - ハイブリッド形式での集合研修・海外拠点社員の参加呼びかけ - 経営協議会での対話	- 地域清掃・植樹活動、教育支援等の社会貢献活動、みつばち倶楽部を通じた支援継続 - 湘南ベルマーレ、湘南ユナイテッドBCとともに地域の子どもたち向け教育プロジェクトやスポーツイベントの共催、湘南国際マラソンでのカーボンオフセットにより環境負荷を低減	- 株主総会を会場・オンラインのハイブリッドで開催、決算説明会もオンライン(第2四半期)およびハイブリッド(期末)にて開催 - 経営層を含む国内外機関投資家とのミーティング実施 - 個人投資家向けオンライン説明会への出講(2年連続)

※CoP (Community of Practice)：特定のテーマについて問題意識、熱意ある社員が集まり、交流を通して自らの知識と専門性を深める活動

価値創造へつながるステークホルダーとのコミュニケーションへ

株主・投資家との建設的対話への取組み・インターネットの活用

株主・投資家との対話は、面談の目的等により経営陣幹部、コーポレートコミュニケーション担当役員、コミュニケーション部IRグループが主体となって対応する体制としています。対話の内容は、経営戦略、業績からサステナビリティ、ESGに関する取組み、議決権行使基準に至るまで幅広く、様々な運用スタイルの株主・投資家のファンドマネジャー、アナリストからESG・議決権行使担当者と積極的に対話を行っています。2022年度は各事業の状況・見通し、事業環境への対応状況、成長投資分野や事業機会、指名委員会等設置会社への移行等のガバナンス強化が頻出の対話テーマとなりました。これらの対話を通じて得られたご意見等は、社長をはじめとする経営陣および社外取締役ほか、経営会議、取締役会等の場を通してフィードバックし、資本政策や会社施策、経営の参考とし、適宜取り入れています。

またWeb会議ツールの利用をはじめとするリモート対応やデジタルコンテンツの充実・活用を進めています。株主総会内容のライブ・オンデマンド配信、決算説明会動画の日本語・英語でのオンデマンド配信、個人投資家向けオン

ライン会社説明会等、国内はもとより海外の株主・機関投資家や個人投資家にも積極的に情報を発信し、その理解促進に努めています。



個人投資家向け会社説明会オンデマンド動画配信

社員とのコミュニケーション

社長自ら国内外のグループ社員と直接対話の機会を設け、自由闊達な双方向でのコミュニケーションを行うとともに、その内容を社内イントラネットなどで共有することでつながりを深めています。また、新型コロナウイルス感染症拡大以降、対面とオンラインのハイブリッド形式での集合研修に移行しており、海外拠点の社員も研修に参加できるようにしたことに加え、各拠点の若手社員を中心とするCoPにより、事業上の課題や業務の改善についての議論とその実践を図り、自己を見つめ直し成長する機会を創っています。これらの取組みにより、働きがいを感じる社員の比率や成長を実感する社員の比率を向上させており、社員満足度調査にてその効果を測定しています。なお、労使経営協議会を年間7回実施し、労働組合に寄せられた社員の労働環境に関する課題に対処しています。



第101期定時株主総会はハイブリッドで開催

参画・賛同する主な宣言・イニシアチブ、社外からの評価

- 「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」賛同表明
- 「国連グローバル・コンパクト」署名
- 気候変動イニシアチブ、日本気候リーダーズ・パートナーシップへの賛同
- 年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)選定インデックス FTSE Blossom Japan Index、MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index、MSCI日本株女性活躍指数(WIN)、S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数、Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index
- CDP Climate Change Aリスト評価、CDP Water Security A-評価、サプライヤー・エンゲージメント・リーダー
- 女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」最高位認定、「プラチナくるみん認定」取得、健康経営優良法人2023(ホワイト500)認定
- 第4回ESGファイナンス・アワード・ジャパン「環境サステナブル企業」選定
- FTSE 4Good Japan Index、MSCI Japan指数、JPX日経インデックス400



地域活性への貢献

azbilグループは、SDGs 基本目標におけるターゲットを「地域に根差した社会貢献活動を全ての事業所において実施し、社員一人ひとりが積極的に参加」と定め、取組みを推進しています。継続的・計画的な活動を実践していくために、2021年度に社会貢献の専任部署を設け、「目指すもの」「重点テーマ」を策定しました。2022年度は、世の中の状況にあわせ、地域社会および社員の安全・安心を確保の上、事業拠点や、協賛イベントなどへの社員参加を推進しました。今後も社員一人ひとりの社会課題解決に向けた取組みを国内外で強化することで、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を目指していきます。

地域活性への貢献

 <https://www.azbil.com/jp/csr/contribution-to-society/voluntary-activity/local.html>

azbilグループSDGs目標III (2030年度目標)

社会的責任

地域に根差した社会貢献活動を全ての事業所において実施し、**社員一人ひとりが積極的に参加**

小学校への教育支援

azbilグループは、地域社会貢献活動の一環として教育支援を実施しています。2022年度は、研究開発拠点である藤沢テクノセンター新棟竣工に伴い、近郊にある藤沢市立高谷小学校の3年生を対象に省エネ見学会を行いました。小学校向けの省エネ見学会は初めての取組みでしたが、約150人を対象に社員が講師となり、azbilグループがSDGs

の実現へつながる活動に取り組んでいることを説明しました。学習の成果として、児童から感想文をいただくなど、現在も交流を続けています。



省エネ見学会 (画像提供：株式会社タウンニュース社)

株式会社タウンニュース社

 <https://www.townnews.co.jp/0601/2023/03/24/670876.html>

azbil みつばち倶楽部による支援

「azbil みつばち倶楽部」は、azbilグループ社員・役員約1,100人が会員となり、毎月給与から少額の拠出を行うほか、社会課題解決に向けた支援先を申請し、投票で支援先を決定しています。様々なステークホルダーと連携した活動であることから、社会とともに成長し続ける企業風土の醸成や、azbilグループとしての連帯感、達成感を得る活動としても位置付けています。2022年度は58団体に総額880万円を提供しました。内訳は「azbil みつばち倶楽部」からの支援金計560万円にアズビルからのマッチングギフト※計320万円を加えた金額となります。



azbilみつばち倶楽部
キャラ“マーチ”

※ マッチングギフト：会員自らが活動に参加している支援先の場合、「azbil みつばち倶楽部」と同額の支援金をアズビルから提供する仕組み

azbil みつばち倶楽部

 <https://www.azbil.com/jp/csr/contribution-to-society/voluntary-activity/mitsubachi.html>



一般財団法人アズビル山武財団



<https://azbilyamatake.or.jp/>



未来のある子どもたちが安心して学べる仕組みや教育機会の提供、科学技術に関する研究助成・新技術の開発支援を目的としてアズビル山武財団を設立。「あすなるフレンドシップ™」という支援名で、奨学金支給、教育啓発支援、研究活動助成の3つのプログラムを提供しています。これらのプログラムによって、支援を受ける人の喜びや達成感が得られるよう、地域社会、学校、研究機関等と連携して多彩な活動に取り組んでいます。これまでに自治体が創設した給付型奨学金制度への参画と支援、経済的

に支援を必要とする、ひとり親世帯の青少年への就学支援、児童養護施設への寄付等を実施しました。これらの活動に加え、地域とともに学童クラブ新設支援を実施したほか、寺子屋による学習支援や、子ども食堂を運営する学生ボランティアの支援等に取り組むことで、子どもの貧困対策を含め、支援を必要とする子どもたちが安心して学習できる環境を実現しています。また、2021年度から公募による研究活動助成をスタートし、2022年度は充実を図るなど、活動の地域と範囲を広げています。

※ あすなるフレンドシップは、アズビル山武財団の商標です。